

学びの風便り

リーディングスクール通信25 R6.7.31

発行：松本市教育委員会 教育研修センター

特集！学びの改革のあゆみ 田川小学校・開明小学校

田川小学校 子どもも教師も探究しています！！

パイオニア校2年目の田川小学校では、今年度の研究の重点として

- 1 地域材を教師が探究（体験）
- 2 子どもを語る（行為の意味を考える）
- 3 アウトプット（学びの表現）

を大切にしています。この1学期は、子どもたちが行う生活・総合的な学習の時間を、先生自ら事前に体験したり、子どもたちの学びと一緒に楽しんだり、子どもたちの半歩前を歩いてきました。

7月10日（水）には、これまでの子どもたちの学びを写真や成果物を持ち寄りながら語り合う『子どもを語る会』を開催しました。先生方が、子どもに起こっている事実から、その行為に至るまでの子どもの生活や友達との関係性、そのことに対する興味や関心などを丁寧に語っていました。聞いている先生方も、じっくり耳を傾け、問いかけながらその子どもの姿を共有していました。会の後半には、信州大学教育学部の安達先生から

「子どもを語る意味—関係発達論で捉える私と子ども—」というテーマで、講演がありました。「なぜ、子どもを語るのか」という問いに対して、「（子どもの中に起こっていることは）外部の観察者には客観的に観察することも、まして何か共通の尺度にしたがって判定したり評価したりすることもできないからこそ、そこを言語化し、カンファレンスを通して意見交換することで、子ども理解を深めていく。」という言葉は、きっと田川小学校の先生方の中に響いたのではないのでしょうか。



また、7月24日（水）には、研究グループアウトプットデーが行われました。リラックスした雰囲気でも語り合えるよう、音楽が流れお菓子も用意されるなど、会場が工夫されていました。このアウトプットは、研究部から視点が示されており、その視点に沿ってそれぞれのグループがアイディアを出しながら、パワーポイントによるスライドや動画での発表、生演奏によるストーリー仕立ての発表、展示物を用いながらの発表など、工夫した表現の仕方がありました。学びの表現のあり方も、教師自らが体験することで、子どもたちが表現する際にどのような工夫ができそうか考えるきっかけになればと願いました。

田川小学校の先生方は自らやってみることを大切にし、子どもたちの伴走者として歩んでいます。子どもたちのやりたいことが実現できるよう、二学期以降も先生方自身が半歩前を歩いて探究を楽しんでいけたらと考えています。2学期11月22日には、市内小中学校へ授業公開を予定しています。



開明小学校 教師自身の「個別最適な学び」を目指して 1学期のあゆみ

この4月から、アソシエイト校としてリーディングスクール事業に参加している開明小学校。「いってみよう、きいてみよう、やってみよう」を合言葉として子どもたちとも共有し、「みんなが幸せな学校」「『学び』を楽しむ子ども」を目指しています。この1学期の学校づくりの歩みと手応えを校長先生、教頭先生、研究主任の横澤先生に伺いました。

「楽しく」「自分が」学ぶ研究づくり＝たい焼きタイム

研究のスタートに当たり、「合言葉」を実現するために、先生自身が楽しみながらそれぞれ自分の学びに向かう「子どもと相似形」の研究スタイルができないかと考えました。先生たちがワクワクしながら授業づくりを進めれば、それは必ず子どもに還ると考えたからです。そのために毎週の「重点研究」の時間を「たい焼きタイム」として、①自己課題タイム（自分の課題を見つけて授業づくりに取り組む）②「共有タイム」（実践や課題について対話する）③「学びタイム」（一緒に研修を受け学び合う）の3つを必要に応じて位置付けながら研究を進めることとしました。



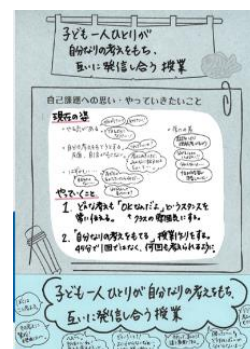
4月 対話を通して自己課題を見出す

新しいチームになった先生たちが、まずはお互いを知り合うため、「やりたい授業、目指す子ども、日々の出来事」などについて、小グループで対話する「共有（おしゃべり）タイム」を何度も繰り返しました。そのたびにグループを変え、できるだけ多くの先生たちと対話できるようにしました。先生たちが仲良くなるとともに、対話を通して一人一人の「自己課題」が少しずつはっきりしていく時間になりました。毎回の「たい焼きタイム」では振り返りや作成物を「ジャーナル」として記録し、職員室に掲示するようにしています。お互いの考えの交流とともに、自分自身の歩みを振り返る記録にもなっています。



5月 実践のスタートとシンカ

4月の終わりには、1か月かけて考えてきた「自己課題」をジャーナルにアウトプットしました。そして5月からは「自己課題タイム」で授業づくりに取り組みました。この時間は、一人で教材研究に取組んだり、学年で相談したりなど、場所や内容、やり方を先生たちが自由に決めて学んでいきます。教室で実践しながら「自己課題タイム」を重ねる中で、「ジャーナル」の記述が豊かになったり、取組みが明確になったりなど、先生たちの授業構想がシンカしていくのが感じられました。



6月 共有タイムで学びを深める

6月の初めに、5月の実践についてのフィードバック・セッションを行いました。それぞれの実践について2分ずつ



話したのち、「すごろく」で選んだテーマで語り合うのですが、大盛り上がりで時間が過ぎて話し合いが終わらないほどでした。また、6月末の校内授業研究会で授業公開をする3人の若手の先生の授業づくりサポートをみんなで行いました。グループの先生方の「自分ごと」のサポートを受け、3人の先生たちは自信をもって単元を進め、公開当日には、生き生きと「〇〇したい」に取り組む素敵な子どもの学びの姿を、手応えとしてみんなで共有することができました。

7月 1学期の歩みを振り返る

「たいやきタイム」で KPT（Keep 継続すること・よかったこと Problem 問題点・うまくいかなかったこと Try 次にに向けてやってみよう）シートを作成し実践の振り返りをしました。先生たちは、本当に豊かな言葉で自己課題を振り返り、シートに表現していました。このシートをもとに小グループでフィードバック・セッションを行いました。メンバーを変えた2サイクルの中で、先生たちは多くの助言をもらい、実践への見通しを深めることができたようです。

今の手ごたえ、そしてこれから

振り返りの中で、ある若い先生が「自己課題の探究は、一人ではできなかった。様々な先生と対話し、新たな視点を得られたことが、実践のモチベーションにつながった」と話されました。実際、「こんなことしたい!」「こんなことやってみよう!」という授業についての語り先生たちの間で日常的に交わされるようになっています。

2学期は、「小グループによる自己課題実践と振り返り」を2サイクル、実践することを目指しています。それぞれの先生たちが自分らしい「個別最適」な学びを通して、一年が終わったときにみんなで「楽しい研究だったね」と振り返ることができることを願っています。

（取材・構成 大久保和彦）

